

令和6年度根本正顕彰会公開講座報告

日 時 11月3日(日) 13:30~15:00
講 師 当会理事：事務局長 仲田昭一氏
演 題 政治家の精神的文化とは何か ～ 根本正と岩上二郎の場合 ～
会 場 ふれあいセンターすがや



【要 点】

(1) ねらい

年1回の公開講座は、新築成ったふれあいセンターすがやで開催された。テーマは、政治家の在り方を問うものであった。今年の政界は、「政治とカネ」の問題で大きく揺れた。問題の当事者である自民党の国会議員たちには、自らの責任として勇断、英断を以て解決に向けて行動したものが見られなかった。衆議院議員総選挙の結果についても、政権や政党の維持に汲々するのみで、誰も責任を取ろうとしない。どうして、このような無責任な政治家に墮落してしまったのだろうか。

政治家になろうという志は素晴らしい。その勇気は称えたい。しかし、それを果たすべき背景が足りないのではないか。政治家としての胆力、信念を磨く努力が不足しているのではないか。権力欲と金銭欲に汚れすぎではないか。国内、国外の政治家と渡り合えるのか。期待しているだけに、広く深い包容力と高潔な精神、強固な胆力を以て活躍する政治家となってほしいところである。

(2) 根本正と岩上二郎

二人の政治家に共通する人生のバックボーンはキリスト教である。その他には、水戸二代藩主義公光園への敬慕がある。根本正に「義公壁書」があり、岩上二郎には義公の『大日本史編纂』の精神を継承する「茨城県史料集」の編さんがある。

なお、キリスト教は「愛」「平等」を以て世界の平和も訴える。しかし、キリスト教圏に於て、戦争が絶えないのも現実である。

① 根本正



根本正は、東木倉村の庄屋の二男であった。国会議員として「平等の精神」を以て義務教育の無償化に努め、それと対照的に「根本法」と称される未成年者の飲酒喫煙禁止法を実現させた。将来の国家を担う、青少年の健全育成を重視したのである。

クリスチャンとしての根本正の生活は、聖書の中から抜粋した『日々の力』を常に座右に於て身を正すことにあった。部屋には、水戸学の精神を表した「弘道館記」の拓本や「義公壁書」の軸装も掲げられていた。

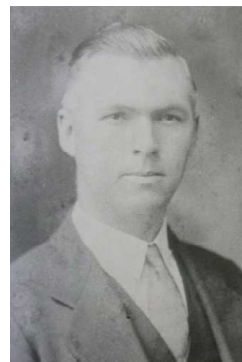
② 岩上二郎



岩上知事時代に副知事を務めた山本満男は、「茨城県知事四期十六年、参議院議員三期十一年、高潔な政治家として活躍した。敬愛の哲学を説き農工両全の理念を掲げ知事として、鹿島開発、筑波研究学園都市建設、米軍水戸射爆場返還に心血を注ぎ、本県飛躍の礎を確立。また学校法人清真学園の創設等人材育成に努めた。歴史と文化を大切に、参議院議員として、宿願の公文書館法の制定を実現。歴史家これを『岩上法』と称えた」とその人

柄と業績を称えた。

岩上は、瓜連町古徳の庄屋の次男であった。宣教師ビックスラーから洗礼を受け、政治家として「弱者への眼差し」を信念とした。介護施設「ナザレ園」、養護施設「あすなろ」の創設に表れている。座右の銘は「一粒の麦が死なねば」である。全力を尽くして施策の実現に奔走した生涯であった。



(3) まとめ

根本正、岩上二郎の二人には、政治家として根底に徹底した「愛」「平等」があり、それに向かって実践していく「胆力」「信念」があった。確かなバックボーンのない政治家は「柔弱」「自己中心」「傲慢」である。

【質問】

- 1 根本、岩上の二人とも庄屋の息子と恵まれた環境に素だった。弱者への眼差しはどうして育ったのだろうか。(生活経験、キリスト教、学問の積み重ねからであろう)
- 2 根本正に、クリスチャン内村鑑三、新渡戸稲造との接点はあったか。(3人の接点について、具体的な例は不明。精神的つながりは当然考えられるが)